

「ワクワク」な夏休みミニ研修(☆地上の星☆彗) レポート4

テーマ『図工指導(粘土)の指導方法』(宮内先生)



子どもたちの発達段階を理解して、指導する大切さを語って下さいました。また、子どもたちの作品を実際に見せていただきながら、「どう評価するか?」「どこを見るか」などを曖昧になりがちなポイントを明確に教えて下さいました。ここでも教師自身が、「どんな姿を見たいか」「どんな姿を目指すか」などが明確になっていないと、楽しく作って終わり・活動あって学びなしになってしまうことを実感。子どもたちにとって、「図工」は肯定的な想いを持っている子が多い教科ですが、苦手な子もいます。そのため、教師も一緒に作りながら、ポイントを示し、モデルとなる大切です。職員みんなで、実際に粘土で「アンパンマン」をつくりながら指導の実際を示して下さいました。

テーマ『板書づくりで大切にしていること』(馬場先生)

「板書は、何のために行うのでしょうか?」、この問いに対する答えを自分なりにもっておく大切さを実感しました。板書をする上で、効果的な指導技術などは複数あります。技術を学ぶことはもちろん大切ですが、その技術を操る教師自身が「どんな想い(目的)」をもっておくことで、意味を成します。

馬場先生は板書の目的として、①記録②整理③共有④評価⑤指示⑥図や表を用いて視覚化などを示されました。時と場合に応じて、これらの目的に応じて使い分けことが大切になります。

最後に、先生方の「板書のマイ・ルール」を交流しました。書き順、子どものノートに合わせて書く、とめ・はねなどを意識などが出てきました。教材研究の際に、板書計画も作っておきたいですね。



テーマ『長く、楽しく働き続ける秘訣』(久保先生)



「子どもに目をかける人であれ」、40 年以上子ども第一で向き合い続けてこられた久保先生のお言葉だからこそ、話を聴かせていただきたい一人ずつの胸に届いたのだと思います。しかも、「教師であれ」ではなく、「人であれ」。ここに久保先生が、子ども一人ずつを理解しよう、そして丸ごと受け入れようとされ続けてこられた哲学のようなものが表れていると思います。

また、「VUCA 時代」という言葉が象徴するように変化の激しい時代。その変化という波にしっかり乗りながらも、変化してはいけない人として、教師としての「根っこ」を「深く・太く・広く」伸ばしていきたいと感じる時間となりました。教師としてのめざす背中を示していただけること、有難いことです。

座談会 テーマ『効率的に仕事を進めるためにどんなことをしている?』



仕事を後回しにしないで、とりあえず手を付けていくことが大切だよ。

たくさんやるべきこと、予定などがあるから、一括管理して、忘れないようにしているよ。

授業ノートを作って残していくと、次の年以降授業づくりの参考になるよ。



ノートなども、5分休憩にポイントを決めて見るようにしているよ。

